

国民と国の約束

甲府市立甲府商業高等学校 1年

佐藤 絢音

「税」がなぜそんなに大切なのか、私にはよく分からない。「消費税」、「所得税」、「住民税」など簿記や社会の授業で出てくるものだから重要なものだと認識していた。しかし「税」についての批判をニュースや報道でよく目にし、特に良い印象は持っていなかった。だから私は、なぜそこまで税金が大切なのか、多くの疑問を調べることにした。

一番多く使われている税について調べていると、多くの税金は社会保障に使われていることが分かった。それは私達が安心して生活していくために必要な「医療」や「介護」、「福祉」などの公的サービスだった。私はこの「医療」に関する事で税金によって助けられていた。小学校四年生の時、私は虫垂炎と腹膜炎により二回にわたる手術と、約三ヶ月間の入院生活を過ごした経験がある。当時かかるお金は三百万円だと聞いたが、実際に支払ったのは九万円だと父が言う。わずか九万円しか支払っていないということを疑ってしまう。もちろん保険のお金もあるが、今考えると一番の大きな理由はこの税金のおかげだと分かった。このことで、税に対する私の見方が大きく変わった。他にも税によって支えられていることはないか、と記事を眺めていると、ODAによる国境を越えての支援という記事が目にとまった。それは、貧困で困っている人達に対してダムや道路、病院などを建設したり、病院で使う薬や注射器を送ったりする活動をしていた。教育の面においても学校・教科書も全て税金だ。一年間で一人あたりの高校生に使われている税金は約百六万円。小学校から高校までの十二年では千二百万円にも及ぶ。税金は常に日常生活の中で使われているのだ。また、日本だけでなく、世界中の人々のためにも使われていたのだ。

「税金の引き上げ」が多くの報道で取り上げられ、よく分からずに勝手に良くないものだと思っていた私は、国や世界が税金によって支えられていることに気づくことができた。私の入院生活は、見ず知らずのたくさんの人から恩を受けていたんだということに気づいた。私達が支払っている税金は誰かのためになっている。納税という義務は国民と国民同士での支え合いだけでなく、世界中の人達との助け合いにも繋がっている。

日本国憲法第三十条の「納税」とは、飛鳥時代から約千三百年間続いている歴史ある国と国民の約束である。税金は、知らないどこかで道路の整備、学生の教育、医療関係などに使われている。この約束があるからこそ五年後、十年後、五十年後がより暮らしやすい未来になるはずだ。「納税」という社会貢献をし、もっと良い社会を自分たちで作りあげよう。大人という枠組みに入るまでの今から二年間、支える側に回るために税の役割、有難みについて学ぶ必要がある。そして二年後、自分が社会を支えている一人だと誇れるようになりたい。